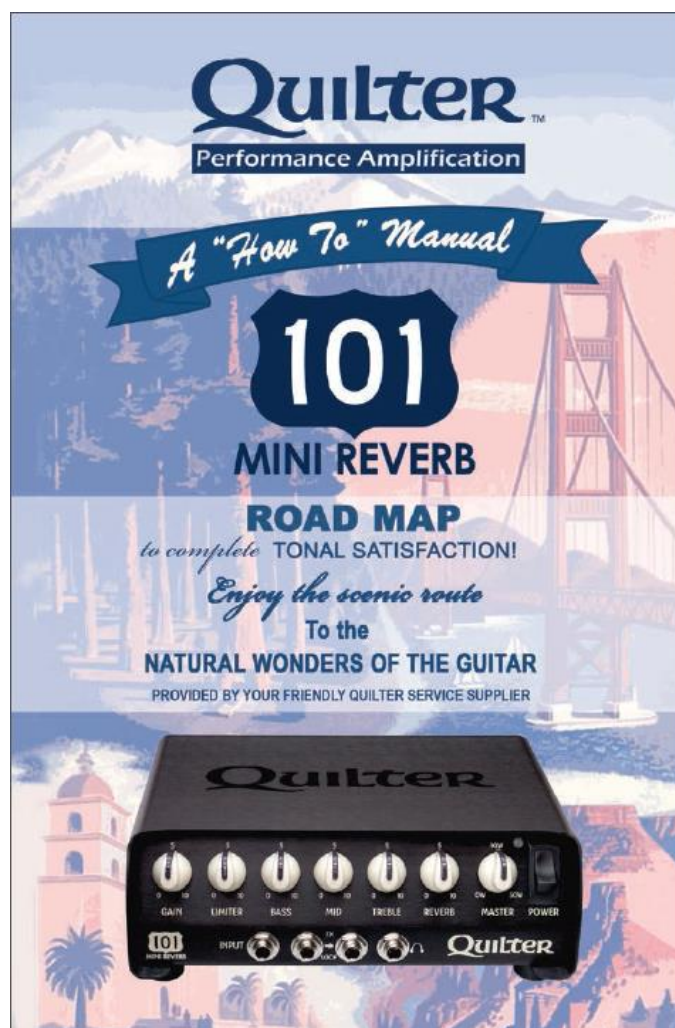


# THE QUILTER 101 Mini REVERB

取扱説明書 Ver1.0



株式会社 サウンドハウス  
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3  
TEL: 0476 (89) 1111 FAX: 0476 (89) 2222  
<http://www.soundhouse.co.jp> [shop@soundhouse.co.jp](mailto:shop@soundhouse.co.jp)

## 目次

安全上の注意 .....	3
EMC/EMI 準拠 .....	3
はじめに .....	4
製品仕様 .....	4
開梱 .....	5
各部の名称 .....	6
フロントパネル .....	6
リアパネル .....	9
電源コネクタ .....	9
スピーカー接続端子 .....	9
オプション .....	10
メンテナンス .....	10

## 安全上の注意



このラベルがある部分には手を触れないでください。感電の恐れがあります。



このラベルがある部分の操作、メンテナンスを行う場合は関連するマニュアルをお読みください。

1. 感電防止のため、カバーを開けないでください。
2. 本製品に液体がかからないよう、また雨中や湿度の高い場所で使用しないでください。
3. 通気口の前に設置しないでください。
4. ヒーター、ストーブなど、高温になる物の近くに設置しないでください。
5. アースピンをカットするなど、電源プラグを改造して接続しないでください。
6. 電源ケーブルは、踏まれたり挟まれたりするところのない場所に設置してください。
7. 付属品やアクセサリはメーカーから提供される物をお使いください。
8. 落雷の危険性がある場合や、長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
9. 本製品を廃棄する場合は、その市町村のルールに従ってください。
10. 通気性の良い場所に設置してください。
11. 本体を拭くときは乾いた布を使用してください。

## EMC/EMI 準拠

注意：この製品は FCC 規則第 15 部に準拠しており、Class B digital device に認定されています。

本製品を使用すると高周波を発信する場合があります、設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機が接続されているものとは別系統のコンセントに機器を接続する
- 販売店、またはテレビ・ラジオの技術者に相談する

## はじめに

この度は、QUILTER 101 Mini Reverb をご購入いただき、誠にありがとうございます。101 Mini Reverb は、自宅練習やレコーディング、ステージなどで使用できる豊富な種類のトーンを提供することができるアンプです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## 製品仕様

出力	0 - 50W 4 - 8Ω
電源	AC100V 50 - 60Hz
消費電力	100W
入力	モノラルフォン端子、2M 入力インピーダンス、 2V ピーク
エフェクト・センド	モノラルフォン端子、1V フルスケール、600Ω
エフェクト・リターン	モノラルフォン端子、1V フルスケール、47k
ヘッドホン出力	ステレオミニ端子、4V ピーク
スピーカー1 出力	8Ω、60 - 100W 定格
スピーカー2 出力	4Ω、60 - 100W 定格
デュアルスピーカー1+2	各 8Ω、30 - 50W 定格
寸法	216mm 幅×147mm 奥行き×80mm 高さ
重量	2.0kg

## 開梱

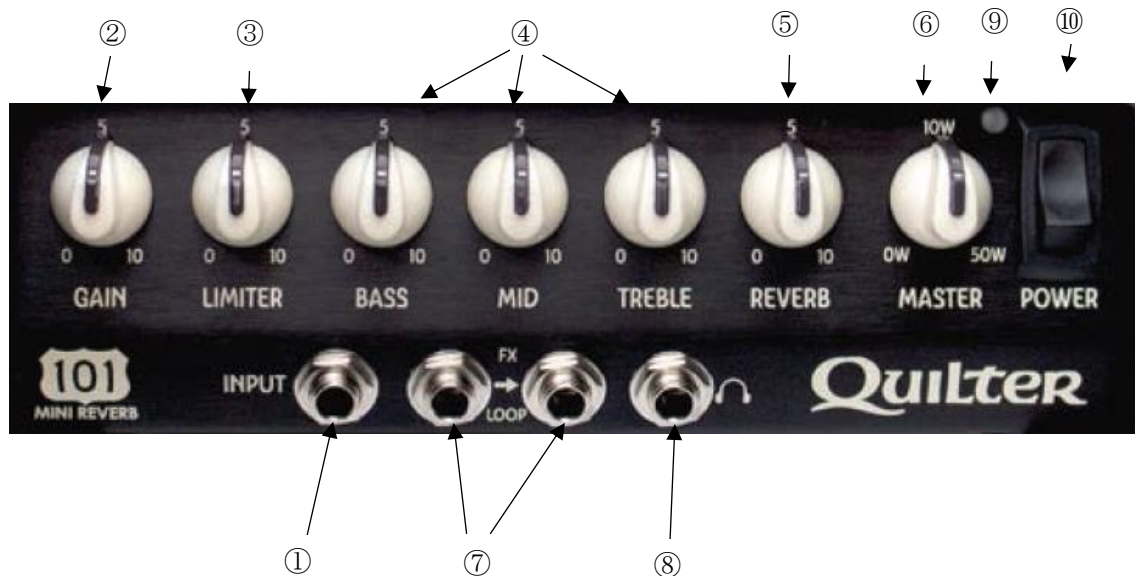
製品パッケージに次のアイテムが含まれていることをご確認ください。

1. QUILTER 101 Mini Reverb 本体
2. 電源ケーブル
3. 取扱説明書（本書）

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

製品の外箱と梱包材は保管しておいてください。輸送時に破損が生じた場合の証明として必要となることがあります。

## 各部の名称



## フロントパネル

1. **INPUT** : ハイ・インピーダンス入力端子です。ギターを接続します。
2. **GAIN** : オーバードライブの調整を行います。
3. **LIMITER** : このリミッターは、出力レベルをモニターし、不用意な歪みがかかりそうになると十分ゲインを下げ、その音が消えるようにコントロールする働きをします。また、ハイゲイン設定のときには長いサスティーンを維持する役割もします。
4. **3バンドEQ** : **BASS** と **TREBLE** はエレキギターのサウンドに密接な関係がある伝統のトーンコントロール回路を使用しています。**MID** はトーンコントロールよりさらに幅広い音域をカバーするために「アクティブカット・ブースト」回路を採用しています。
  - トーンコントロールを調整するとき、最初に **BASS**、**MID**、**TREBLE** 全て「5」の位置に合わせてください。ほとんどの楽器に適用できます。
  - **BASS** : 0~8 : 低域を加えます。  
8~10 : 高域と低域の間にコントラストを加えます。
  - **MID** : ギターの中音域をカット及びブーストします。  
5以下 : しっかりとした明瞭なトーンでリズムプレイに使用される際立ちのある中域を作ります。  
5以上 : オーバードライブが作りやすい中域をブーストします。
  - **TREBLE** : 高域を徐々に加えていきます。これらの設定は全て互いに強く影響し合うため、それぞれがトーンに対してどのように作用するか理解するためにコントロールの全領域に渡ってテストすることをお勧めします。

5. **REVERB** : 他の **QUILTER** 製品と同じデジタル IC が使用されています。明瞭な起伏を失うことなく、伝統的なスプリング・リバーブタンクを再現しています。0~5 において段階的に加えられます。5~10 においては、ドライ信号は減少していき、ボリュームをそれほど上げることなく、ウェットなリバーブを作ることができます。
6. **MASTER** : アンプ内のコントローラーで作った音質を変えずに全体の音量を調整します。同じ様な出力を持つチューブアンプと比較するため、分かりやすいように相対出力 0 - 50W がパネルにプリントされています。実際の出力はスピーカー特性に依存するため、**MASTER** のこの表示 (0 - 50W) は一種のガイダンス的な役割を果たします。

**Quilter** アンプ開発における使命は、チューブを必要としない仕様に適合する最新のハードウェアパッケージで、高級ヴィンテージアンプと同じ豊かで温かいサウンドと、鋭くコントロール可能なオーバードライブを実現することです。どんなボリューム設定のときでも、高級ブティックアンプと同じオーバードライブ感覚のレスポンスを体感できるはずですが、しかしながら、フィードバックとサステイーンは、アンプの出力がギターボディと共鳴するのに十分なボリュームに達するかどうかによって依存します。美しいフィードバックとサステイーンを得るには **MASTER** ボリュームを高く設定し、最適なスピーカーを鳴らす必要があります。そしてこの迫力あるトーンは、ミュージシャンに直接インパクトを与え、ロックミュージックを体感する重要な要素の 1 つになっています。オーバードライブは小さい音量のとき弱くなる傾向がありますが、**QUILTER** アンプでは、ギターのピッキングに対して同じダイナミックなレスポンスを得ることができます。

7. **FX LOOP** : いろいろなペダルを組み合わせることでサウンドを作ることは、ギター演奏の面白さの 1 つでもあります。101 ミニヘッドはペダルの特性をうまく引き出せるように設計されています。

外部エフェクトに対しては 1V の信号を送ります。コーラス、ディレイ、リバーブなどのペダルをここに繋いで最適なサウンドを作ることができます。これらのエフェクトはオーバードライブを含むアンプ全体のサウンドにそのまま重ねることができます。エフェクターチェーンの最終的な信号は右側の端子に戻ってきます。この端子にケーブルを繋ぐと、内部のスルー接続が切れて、エフェクターを通じた信号がアンプに入力されます。

歪みやオーバードライブペダルは、ギターとアンプ入力の間に入れて使用してください。それにより、色づけされたサウンドをアンプから出力します。

8. ヘッドホン端子：ヘッドホンを接続してモニターします。音量が大きいため、**Master** ボリュームは半分くらいにして聴くようにしてください。フルレンジヘッドホンは標準のギタースピーカーより高音が強調されてしまうため、**Hi-Cut** コントロールを使用して聴きやすい音に調整してください。  
ヘッドホン端子にヘッドホンを接続してもスピーカーはミュートされません。
9. 電源ランプ：アンプの電源がオンのとき点灯します。
10. 電源スイッチ：アンプの電源を入れます。



## リアパネル

### 電源コネクター



付属の電源ケーブルを接続します。感電を防止するため、アース線は必ずアース端子に接続してください。

### スピーカー接続端子



8Ω または 16Ω スピーカーを下段 8-OHMS 端子に接続します。

4Ω スピーカーは上段 4-OHMS 端子に接続してください。

8Ω スピーカーを 2 台、または異なるインピーダンスのスピーカーを 1 台ずつ接続する場合、2 つの端子にそれぞれスピーカーを接続してください。パワーは 2 台のスピーカーに分割されます。本アンプでは、インピーダンスミスマッチにより音質が変わることはありません。

注意：本アンプに許容入力が 15 - 30W 程度と低いヴィンテージスピーカーなどを接続する場合、安全に使用するために、MASTER ボリュームを十分絞ってから徐々に上げるようにしてください。

## オプション

Quilter Labs 専用キャリングケース（別売）を使用すると、Quilter 製品を収納して安全に持ち運ぶことができます。



## メンテナンス

症状	原因と対策
電源が入らない	電源ケーブルがしっかりとコンセントに接続されているか チェックする
アンプの電源が落ちて直ぐに立ち上がる。	アンプが過熱しサーマルプロテクションが働いた可能性がある MASTER ボリュームを 30%まで下げる 直射日光を避けて設置する 壁や他の機材と十分な距離を置いて設置する
音が出ない	MASTER ボリュームと GAIN がゼロになっていない ことを確認する ギターケーブルがアンプとギター両端にしっかりと接続 されているか確認する ギターケーブルを交換してみる スピーカーケーブルがスピーカー端子にしっかりと接続 されているか確認する
音が低い、または変動する	ペダルとアンプと切り分けるため、FX Loop に接続した ペダルを取り外し、ギターを直接アンプに接続する ペダルの接続、電源、バッテリーをチェックする

バックグラウンド・ハムノイズが出る	<p>ギターケーブルがしっかりと接続されているかチェックする          ギターケーブルを交換する。シールドケーブルを使用する          アンプ、ペダルは同じコンセントに接続する          ギターのボリュームを0にするとハムノイズが消える場合          シングルコイルピックアップは特に調光式ライト、ネオン          ライトなどのハムノイズを拾いやすい          「フェーズスイッチ」ピックアップ・セレクターがある場合、          試してみる          ギター・シールドをチェックする          弱いブーンという音がでる場合、アースが接続されて          いない可能性がある。必ずアースを接続する</p>
過度のノイズ	<p>GAIN の上げ過ぎ。          ケーブル、ギター、ペダルなどの接続をチェックする          繰り返し発生するノイズはスマートフォンから出ている          可能性がある。スマートフォンをアンプやギターから          遠ざける</p>
アンプの音がどの音量でも歪む	<p>ヘッドホンで聴いたときに問題なければスピーカーの          可能性がある          MASTER ボリュームを下げる          エフェクトループに接続されている機材を外してギターを          直接アンプに接続する</p>
クリーントーンが欲しいのに過剰な オーバードライブがかかる	<p>GAIN を下げて MASTER を上げる          JAZZ や SURF ボイスを試してみる</p>

次の事象が発生した場合はコンセントから電源ケーブルを抜いて直ちに販売代理店にご相談ください。

- アンプ、または電源ケーブルから煙りが出た
- アンプを誤って落としてしまった
- アンプに液体をこぼしてしまった
- アンプ内部の部品が外れたような音がする

Quilter 101 Mini Reverb Head Manual  
P/N 000755 Rev. B  
www.quilterlabs.com  
Copyright 2016

# 101 MINI REVERB

